
ワッフル

並盛りライス

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワッフル

【Zコード】

N5106A

【作者名】

並盛りライス

【あらすじ】

僕は間違いなく甘党だ。それは誰にも言えない秘密ではあるけど

京都駅構内にあるワッフル屋はいつも人気だった。

帰りのお土産や、下校時に食べるためには並んでいる人も多い。

でも、その大半が女性で、男の僕は近づきにくかった。

もともと甘いものが好きで、高校に入つてからでもそれは変わらない。

友達といる時は我慢するけど、一人の時はパフェでも食べれる。

帰り道に何度も店の前を通りぬく度に勇気がでなくていつも素通りしてしまう。

一度でいいからあのワッフルを食べてみたいと思つた。

電車の中はいつも満員で、誰かの汗のシンとした匂いが鼻についた。
ドアのすぐ近くに立つていた僕に、隣りで談笑している女子高生の
話が聞こえた。

「そんなにおいしいの？あそこのワッフル？」

「そういえばいつも行列だよね

」「」の前も、ダイエット中なのに二個食べちゃつた

「あはは、ダメじゃん」

無関心を装つていたが、唾液線が刺激される。

絶対に食べてみたい。人がいなければだけど……

案の定、小さな列ができていて結構混んでいる。

ダメか…

渋々、通り過ぎようとすると誰かに肩を叩かれた。

「山内くん……だよね？」

振り向くとそこには、同じクラスの国生さんがいた。
小柄でほほりとした国生さんは、いつもおとなしくて、自分から声をかけるタイプとは思えなかつた。

それに、2、3度ぐらじ話をしてぐらじであまり接点もなかつた。

「国生さんってこち方面だっけ？」

「う、うん。」

照れたように頷く。

「……ワッフル…食べる?」

遠慮がちに国生さんが言つ。

じつとワッフル屋を見ていたのを見透かされたみたいで顔が真っ赤になつた。

ワッフルは食べたい。けど、素直に言えない気がした。

なんと答えたらいいか分からず」吃つていると…。

「甘いもの好きなんでしょう？山内くん…」

なぜ、家族と一部の人間しか知らない事実を知つていいのだ？。

冷や汗でワッフルどころじゃなかつた。

「この前、私が抹茶パフェを食べに行つたときに、これ以上の至福はないつて顔で山内くんがチョコパフェを頬張つてたから…好きなのかなつて…」

「いえ…そんなことは…。はい。甘いものはまあまあ好きつていうか…かなり好きです…」

言つてしまつた。顔が熱い。今すぐ電車に乗つて旅に出たい衝動にかられた。

「……ワッフル食べる？..

「あつ…はい。」

そういう訳で今、僕は念願のワッフルを国生さんと一緒に食べてい

る。

国生さんはメープルが好きらしいが、僕はチョコが一押しだと思っている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5106a/>

ワッフル

2010年12月12日03時07分発行